

桜山商店街振興組合(名古屋市昭和区) 【代表者:理事長 土谷光男】

キャッチフレーズ

地域に根ざした“縁側的な商店街づくり”

活性化モデル商店街としてのモデル性

空き店舗の活用により住民ニーズに対応した各種事業を展開し、高齢者や障害者をはじめ、だれもが気軽に立ち寄れるような縁側の空間を創造する生活支援型商店街

商店街の将来ビジョン

桜山商店街周辺は閑静な住宅地であるとともに、高校や大学が多く立地する市内有数の文教地区である。また、市立大学病院や市博物館、郵便局などの集客施設も充実しているが、商店街へ人々を吸引できていない状況にある。地域においては高齢化が進んでいるほか、障害者自立支援施設等の福祉施設が多く立地しており、今後、高齢者や障害者の暮らしを支える商店街づくりが課題となっている。

1 大学や地域との連携による住民ニーズに対応した商店街づくり

商店街近隣の名古屋市立大学や障害者団体などと連携し、地域の課題に対応した事業を展開していく。商店街の空き店舗を活用して、ここで住民ニーズに対応した事業を実施することで、だれもが気軽に立ち寄れるたまり場的なスペースとし、商店街全体を縁側的な空間としていく。

2 商店街商標を活用した地域ブランドづくり

名古屋市立大学との連携により作成・商標登録した商店街シンボルマークを活用した商店街グッズの開発、一店逸品運動を展開することで、桜山のイメージや個性を高め、ブランド化を図っていく。

具体的に取組む事業内容

空き店舗活用事業（20年度～22年度）

名古屋市立大学や障害者団体と連携して、商店街の空き店舗を活用し、住民ニーズに対応した事業として商店街に不足している商品の販売や、障害者の社会活動の場を提供する事業を実施する。

商店街商標を活用した商店街グッズの開発・一店逸品運動（20年度～22年度）

住民ニーズや社会ニーズに対応した商店街オリジナルグッズの開発、こだわりの商品や優れたサービスなどを開発する一店逸品運動に取り組む。